

目指す「明野の15歳の子ども像」

【何ができるようになるか】

- ①自らの人生を切り拓くための「学力・体力の定着と向上」
- ②自立の基盤となる「自主性・主体性の育成」

1 学期検証結果

【どのように学ぶか～策と検証項目～】

所管部	どのように学ぶか	策	検証項目と目標	青字:校長から 赤字:数値目標 () : 集計結果
教務	主体的・対話的で深い学びの実現	① 苫小牧市共通取組事項の徹底（焦点化・イメージ化・視覚化） →学習の見直しを持たせ、わかる授業の実践 ② 授業改善に関わる校内研修の充実 ・学習形態（個・ペア・グループ）の工夫…言語活動 ・評価方法の工夫…指導と評価の一体化 ※評価の妥当性・信頼性について 観点「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、その方法（見取り）について研修の継続が必要	① 学習のねらいと内容が理解できている【生徒アンケート(1)】 良好である。ただ、肯定的回答に至らなかった10%弱の生徒への手当をどうするか？ ② 授業では、生徒同士の活動や他の人との意見交流を通じて、考えや理解が深まっている。【生徒アンケート(2)】 良好である。授業中（本時案）に、いかに他者との交流を意図的、計画的に盛り込むか？（話すことのみならず、データ入力等）	① 1・2と回答する生徒 →80%以上 (90.1%) 2学期…1の回答の割合を向上させる ② 1・2と回答する生徒 →80%以上 (94.6%) 2学期…1の回答の割合を向上させる
	タブレットの積極的・効果的な活用	③ 校内研修によるICT活用スキルの向上 ・ICT機器を授業で活用するための研修会の開催 ・ICT機器活用を位置付けた指導案・指導計画作成の推奨 ④ eライブラリ活用による家庭学習習慣定着の促進 ※家庭で所有している情報端末、ネットワーク環境の使用に協力いただける家庭に対して、自宅にいる生徒へのeライブラリでの学習指示やメッセージの交換、ミーティング等を試験的に実施することで、全教員が非常時の生徒の学びの保障に備える必要がある。	③ 授業でICT機器をほぼ毎日活用している【生徒アンケート(3)=全国学習者調査R2(28)】 教科、総合、道徳、アンケート等で積極的に導入し、成果と課題が明らかになっている。働き方改革の視点からも活用の幅を広げ、組織全体で活用例の共有、スキルの向上を推進したい。 ④ eライブラリが補充的な学習のツールとして活用できている【生徒アンケート(4)】 モーニングタイム、授業の終末等での活用が進んでいる。PCの持ち帰りは難しいが、今後、eライブラリの長期(臨時)休業中の学習や不登校対策、副教材の代替としての活用も期待したい。(教科の特性により柔軟に対応)	③ 1・2と回答する生徒 →50%以上 (69.7%) 2学期…1の回答の割合を向上させる ④ 1・2と回答する生徒 →50%以上 (62.3%) 2学期…1の回答の割合を向上させる
指導	自己理解・自己管理能力の育成	① 「苫小牧市情報機器の利用の約束」の普及啓発と情報モラルについての指導と推進 ② 情報機器利用を含めた望ましい時間の使い方(生活リズム)の指導 ※時間管理(タイムマネジメント)の継続的な指導 ・就寝時刻～起床時刻＝睡眠時間 (単発指導は×) ・下校時刻～就寝時刻＝家庭での過ごし方(意外と短い)→習い事(塾他)、家庭学習(宿題、予習・復習)、その他(TV・情報端末使用)の時間をどうやりくりするか？	① スマホやタブレット、ゲーム器等を使用するときのルールを家族で決めている。【生徒アンケート(5)】 情報モラル指導が功を奏し SNS のトラブルは少ない。情報機器利用のルールについては家庭への継続的な啓発が必要である。 ② スマホやタブレット、ゲーム等は時間帯や使用時間を考えて使っている。【生徒アンケート(6)】 時間の管理は生活習慣の改善を促すことにつながる。生徒は意外と忙しいので、1日のスケジュールを振り返り、すべきことの優先順位を付けられるよう、自律と自立を促していかなければならない。(家庭への働きかけも含めて)	① 1・2と回答する生徒 →80%以上 (63.2%) 2学期…1の回答の割合を向上させる ② 1・2と回答する生徒 →80%以上 (62.9%) 2学期…1の回答の割合を向上させる
	いじめの防止・根絶	③ 教育相談やいじめに関する調査等の実施による早期発見、校内連携の強化による初期対応の迅速化	③ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。【いじめの把握のためのアンケート調査 調査票1-17】 残り4.5%のおそらく不信感を抱いている生徒の意識が変わるよう、問題への早期かつ誠意ある対応を徹底しなければならない。	③ Aと回答する生徒 →80%以上 (95.5%) 2学期…100%
生徒会	課題対応能力の育成(教育効果を意識した特別活動の展開)	① 定期で開催される全校協議会の次第に、各学年の生活上の課題の洗い出しを通年の項目として設定する。(主体性) 【生徒指導にも通じるキーワード】 まかせる(信頼)・ほめる(承認)・うけとめる(受容)	① 充実した学校生活を送るために、学校生活上の課題を見付け、解決に向けて話し合い、行動に移すことができている。【生徒アンケート(7)】 概ね良好である。学校教育における、特別活動の教育的意義を的確におさえ、学校生活の充実につながる取組を期待したい。 ② 学校行事や生徒会活動の目的を理解し、自分が努力すべき事を決めて粘り強く取り組むことができている。【生徒アンケート(8)】 担当の配慮により生徒の活躍や、振り返る場面が的確に設定されていたと考える。生徒の自己肯定感、自己有用感を高める、本校の「強み」である。	① 1・2と回答する生徒 →80%以上 (80.2%) 2学期…1の回答の割合を向上させる ② 1・2と回答する生徒 →80%以上 (86.9%) 2学期…1の回答の割合を向上させる
	家庭や地域と連携・協働した活動の推進(共助の意識の向上)	③ 地域活動局を中心としたボランティア活動の取組 →人のために役立つ経験を通して、勤労観や職業観の形成につなげる ※数年後、コミュニティ・スクールへの移行が検討されている。地域と学校の結びつきが強い本校の伝統を発展させる契機になる。無理なく、ムラなく、持続可能な取組がほしい！	③ 明野中学校の一員として、地域へのボランティア活動を通して、積極的に地域や社会に関わることができている。【生徒アンケート(9)】 コロナ禍により地域行事が中止となっていることによる。地域住民との直接的な関わりがなくても地域のために貢献できることがないか？	③ 1・2と回答する生徒 →80%以上 (29.4%) 2学期…設定変なし

学年	人間関係育成能力 (不登校の防止・解消)	<p>① 支え合おうとする学級・学年集団づくり(支持的風土) →生徒理解の強化、中1ギャップ、学校不適應の兆候の早期発見 【ほっとで測定できるコミュニケーションスキル(13要素)】 ○礼儀…挨拶や「してもらったこと」への感謝ができるか ○表明…意見や欲求を主張できるか ○参加…対人参加や、仲間と協調することができるか ○配慮…相手への配慮や新設、援助ができるか ○拒否…他者からの無理な働きかけに「やめて」と言うことができるか ○緊張…緊張や不安によって話せなくなることがあるか ○称賛…相手をほめたり喜ばせたりすることができるか ○遵守…規則や秩序を維持したり、不適切な行為を謝罪したりできるか ○忠告…社会的な望ましさを促進する働きかけができるか ○自律…協調性や我慢などの自律的な行動ができるか ○率先…集団をまとめることなど、リーダーシップのとれた行動ができるか ○学業…学習に関連した望ましい行動ができるか ○相談…相談や自己開示ができるか 【上記の要素の組み合わせで把握できる全体的な特徴(3因子)】 ●関係維持…他者と良好な関係を保ち励まし合う力 ●仲間強化…仲間と高め合ったり、影響力のある発言をしたりする力 ●自己統制…衝動性を抑え、良識に基づく意思決定を行う力</p>	<p>① コミュニケーションスキルの各要素からまとめられた因子 (「関係維持」「仲間強化」「自己統制」)の経時比較【子ども理解支援ツールほっと】</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="4">【ほっと各因子の偏差値の学年平均】</td> </tr> <tr> <td></td> <td>関係維持</td> <td>仲間強化</td> <td>自己統制</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>53.1</td> <td>52.0</td> <td>53.3</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>53.8</td> <td>53.8</td> <td>53.0</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>49.9</td> <td>50.2</td> <td>49.6</td> </tr> </table> <p>3因子の偏差値が概ね50を超えているが、生徒個々のコミュニケーションスキルの13要素も確認の上、個々の状況の把握(生徒理解)に努めなければならない。(数値がすべてではないが傾向を知る客観的な資料にはなる)</p>	【ほっと各因子の偏差値の学年平均】					関係維持	仲間強化	自己統制	1年	53.1	52.0	53.3	2年	53.8	53.8	53.0	3年	49.9	50.2	49.6	<p>① 左記因子の偏差値 →50以上(左記) 2学期…設定変更なし</p>
	【ほっと各因子の偏差値の学年平均】																							
	関係維持	仲間強化	自己統制																					
1年	53.1	52.0	53.3																					
2年	53.8	53.8	53.0																					
3年	49.9	50.2	49.6																					
キャリアプランニング能力	<p>② 発達段階や生徒の実態を踏まえた、キャリア学習の実施</p>	<p>② キャリア教育によって自分の進路に対する関心が高まっている【生徒アンケート(10)】 職業調査、職業体験、上級学校での体験学習を通じて、自己の将来について、より具体的に考え始めているようである。今後はキャリア教育をより広くとらえ、キャリア形成に必要な資質・能力(コミュニケーション能力、問題発見・解決能力、協働する力)の視点から、指導内容の改善を考えていかなければならない。</p>	<p>② 1・2と回答する生徒 →80%以上(78.8%) 2学期…1の回答の割合を向上させる</p>																					

各校務分掌、学年部会へ…上記の検証を踏まえ、2学期の取組の具体策(いつ、誰が何をどのように実施するのか)をお示しいただくようお願いいたします。

【実施スケジュール】

月	学校行事	教務	指導	生徒会	学年(学級)
4	入学式 参観日 PTA 総会 (今年度は書面会議)	市統一学力検査(CRT) ほっかいどうチャレンジテスト(前年度問題)	情報モラル指導①	生徒会説明会・認証式 全協・常任委員会	学級・学年開き(組織づくり) 修学旅行準備に係る3学年の取組
5	二者懇談 修学旅行 体育大会 防災訓練(火災)	全国学力・学習状況調査 自校採点に基づく授業改善 研修講座受講	生活意識調査①	体育大会 全協・常任委員会	体育大会準備に係る各学年の取組 体験学習準備に係る1学年の取組
6	中体連 体験学習 期末テスト 学級懇談	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 新体力テスト① ICTミニ研修	教育相談アンケート 情報モラル指導②	中体連壮行会	ほっと 進路ガイダンス 教育相談
7	宿泊研修 参観日 学校評価(生徒アンケート) 学校評議員会①	ほっかいどうチャレンジテスト(1学期末) →学習の振り返り、学びなおし 校内集計の検証に基づく体育授業改善	いじめアンケート①	いじめ問題子どもサミット 全協	教育相談 三者懇談 宿泊研修準備に係る2学年の取組 高校体験入学(3年)
8				全協・常任委員会	↓
9	学校祭 中間テスト 防災訓練(地震) 担振防災教育デー		生活意識調査②	学校祭	学校祭準備に係る各学年の取組
10	生徒会役員選挙	英検 IBA 校内研修(研究授業)	情報モラル指導③	全協・常任委員会	教育相談 職業調べ(2年)
11	生徒総会 進路説明会 職業 体験 期末テスト 三者懇談	新体力テスト② 全国学力・学習状況調査の結果公表	教育相談アンケート(3年) いじめアンケート②		ほっと 職業体験(2年) 進路説明会 三者懇談(3年)
12	三者懇談 学校評価(生徒アンケート) 学校評議員会②	ほっかいどうチャレンジテスト(2学期末) →学習の振り返り、学びなおし		全協・常任委員会	三者懇談(3年)
1	新入生保護者説明会	次年度計画策定	次年度計画策定	次年度計画策定	教育相談 学級・学年経営反省
2	私立高入試 新入生体験入学 学年末テスト(1・2年) 新年度計画会議		教育相談アンケート(1・2年)	全協・常任委員会	新入生体験入学受入(1年)
3	公立高入試 学級懇談(1・2年) 卒業式 学校評議員会③			送別集会	